

■ 中間考査、来週実施

2学期中間考査が10月4日(月)から10月6日(水)まで実施されます。考査まで1週間をきりましたが、準備は順調に進んでいますか? 9月10日(金)(※特進コースは9月11日(土))までオンデマンド授業で、9月13日(月)から対面授業となり、何となく中間考査まであっという間であったという印象を持っている諸君も多いと思います。そのような状況下でも抜かりなく準備し、考査に臨んでいただきたいと思います。特にオンデマンド授業で行われた部分については、理解が不十分である可能性があると思いますので、よく分からないところは教科担当の先生に確認しましょう。



3年生はいよいよ総合型をはじめ、受験シーズンに突入しました。もうすでに合格が決まっている人もいますし、校内の推薦会議をクリアし、11月に実施される学校推薦型の指定校制で受験して、「あとは合格を待つだけ」などと安易な気持ちになってしまっている人もいるのかもしれませんが、例年、3年生で進路が決定するとどうしても油断する傾向が見られますが、最後まで気持ちを引き締めて、学力の向上を図ってほしいと思います。

1・2年生の諸君は、3年生になってから、慌てなくて済むよう、1回1回の考査を大切に、しっかりと準備して臨むよう心がけましょう。毎年のように、3年生になってから、「1・2年生の頃からしっかりやっておけば良かった」という後悔の弁を耳にすることがあります。そうならなくて済むよう、普段の授業を大切に、計画的に準備を進めてください。

■ 就職希望者へ

就職希望者で企業から内定を得た諸君は、「就職承諾書(※就職同意書というケースもあります)」を提出することになっています。企業から送られてきていない場合には、学校で用意している様式で提出することになります。その際、お礼状も同封して送るよう指導していますので、忘れないようにしましょう。お礼状の書き方は、『進路活動のてびき』の24ページに例がありますので、参考にして書くようにしてください。お礼状については、不採用の場合にも書くよう学校としては指導しています。なかなかそういった気持ちにはなれないかもしれませんが、「今回は内定を得られませんでした、何とか次はがんばります」といった前向きな内容で書くようにしてほしいと思います。



■ オンライン入試について

前号でも触れましたが、最近、総合型選抜や学校推薦型選抜（指定校制・公募制）といった受験の型を問わず、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入試を「オンライン面接」で実施するという文書が複数届いています。ホームページ等で、自分の志望校の入試に変更点がないかよく確認してほしいと思います。



面接そのものの対策については、基本的に、「志望動機」や「高校生活（※学業、部活動、修学旅行や球技大会などの学校行事）」「入学後、どのような学校生活を送り、どんな進路を希望しているか」といったことが質問の中心になっていくものと思いますので、そういったことに注意して準備するようにしてください。

オンラインでの面接試験については、面接内容よりもむしろ受験環境の整備が難しいことの方が課題になっていたりしています。「オンラインによる受験環境の整備が難しい者」について、大学、短大、専門学校によっては、インターネットの環境整備ができなかったり、オンラインでのプレゼンテーション試験の実施が難しかったりする場合には対面でも対応するというケースもあるようですので、よく確認する必要があります。「オンライン入試」に関する自覚が薄く、環境が整わないまま、入試本番を迎えるということのないように十分に気をつけてください。以下に、ある大学のQ & Aの一部を引用させていただきましたので参考にしてください（※あくまで引用させていただいた大学のケースで、他の大学や短大、専門学校では異なるケースもあり得ますので十分に気をつけましょう）。

Q 1 スマートフォンやタブレットで受験しても良いか？

A 安定性の観点からパソコンを推奨しますが、スマートフォンやタブレットでも問題はありません。お手持ちの端末がオンライン面接にあたり必要な端末、OS、ブラウザに該当するかどうかは、受験生向けに案内している資料「オンライン面接の手引き」を参照してください。

Q 2 高校の教室やインターネット環境、パソコンを使用させた方が良いか？

A 高校の教室やパソコン、wi-fi 環境を使用させても問題ありませんが、高校側の準備は必須ではありません。受験生が自宅等の個室および個人所有の端末を利用することを想定しており、自宅での実施が難しい場合やオンライン面接に必要な機材・通信環境を準備できない場合は、対面での面接を認めております。

（Q & Aは裏面に続きます）

Q 3 高校のパソコンルームや教室を使用させる場合の注意点はありますか？

A オンライン面接の最中に受験生以外の方が入室・在室することは不正行為に該当しますのでご注意ください。また、オンライン・対面いずれの場合も手元や視界にメモ等を準備することは認められていません。なお、チャイムやインターフォンの音、電車等の生活騒音は問題になりません。

Q 4 Wi-fi 環境が無い、通信速度が不安定な場合等はどうすれば良いか？

A 事前に判明している場合は、オンライン面接の受験環境が整備できない理由に該当しますので、対面での面接を希望してください。なお、オンライン面接を希望して出願書類を提出した後、受験生側の都合である程度速度制限等により環境が変化した場合でも対面への変更や受験時期の変更は認められませんので、ご注意ください。

Q 5 オンライン面接当日のトラブルはどうすれば良いか？

A 受験生向けに、オンライン面接当日のトラブル窓口を開設しています。まずはそちらに受験生からお電話いただき、状況により判断・指示いたします。なお、復旧に5分程度以上かかる場合には面接順の変更等の対応をとる場合がありますので、面接当日は所定の時間だけでなく、終日予定を空けていただくよう予め受験生に案内しております。

繰り返しになりますが、これはあくまで引用させていただいた大学の例であり、すべての大学でこういった方法でオンライン入試が展開されるとは限りませんので注意してください。昨年度に続いて2回目の実施という大学や専門学校もあるかもしれませんが、手探りの状況というケースもあるようです。できるだけ受験生に不利にならないよう、各大学・専門学校も努めているものと思われまますので、よく分からない場合には恥ずかしいなどと思ったりせず、きちんと志望校に連絡を取って質問するようにしましょう。

■ 推薦入試希望者へ

今後、3年生諸君で学校推薦型選抜（指定校制・公募制）を希望する生徒がいる場合、推薦会議前までに「推薦受験願・誓約書」を提出してもらうことになりました。そもそも「推薦受験願・誓約書」を提出してもらうことについては、「合格したにもかかわらず辞退します」とか「校長先生から推薦の許可が下りたにも関わらず、受験しません」といったことを避けるねらいがあります。少し手順が変わりますが、よく自覚して受験に臨んでもらうためにこのような措置を取りますのでご理解いただきますようお願いいたします。なお、生徒諸君と話していて、「推薦受験願・誓約書」と「推薦書」を区別できていないケースがよくあります。3年生諸君が学校に提出するのは「推薦受験願・誓約書」であって、「推薦書」は担任の先生が記入するものです。学校推薦型選抜（指定校制・公募制）の要項に綴じられているかと思えます。



■ある卒業生の話

少し前の話になってしまいますが、5月末に猪苗代町総合体育館・カメリーナで開催された第67回福島県高等学校体育大会卓球競技での出来事です。筆者も男子シングルスに出場した時計太一君（3年2組）を引率し、参加してきました。時計君は男子学校対抗優勝校の帝京安積高校の選手にランク決定戦で惜敗しましたが、本人も納得のいく良い試合でした。その試合会場で思いがけなくうれしいことがありました。



男子学校対抗が開催される日の朝の監督会議が終わった後に、地区委員長として役員席に座っていた私の方に20代後半と思われる女性の先生（※実際は30代半ばでした）が近寄って来られました。「昌平の清水先生ですね!？」と尋ねられ、「ええ・・・」と答えたものの、マスクを着用していたこともあり、どこのどなたなのか分からない状況でした。その後、(旧姓の)名字を言われてピンと来ました（※以下、名前のイニシャルから「Tさん」と表記します）。Tさんは本校の3期生で、まだ保健体育科（※現在のように普通科体育コースとなる前は、学科が普通科と保健体育科に分かれていました）に女子が在籍していた頃の生徒でした。筆者が本校に赴任した1年目に、保健体育科の1年生に在籍していたTさんのクラスの授業を担当しており、記憶が鮮明に蘇りました。Tさんは柔道部に所属していて、毎日厳しい練習でくたくたになりながらも、早起きして小野町から電車で通学してくる生徒でした。その話を聞いて、「頑張り屋だな」と思った印象があります。Tさんは大学卒業後、家庭科の講師をしながら、結婚、出産を経て、今年度から福島県の高校教員に正式に採用され、県南地区の高校に赴任したそうです。ところが、その高校には柔道部がなく、たまたま空いていた卓球部の第1顧問になったとのことでした。

Tさんが高校時代に在籍していたクラスは、元気のある印象的な女子生徒が多く、二十歳を迎えてお酒が飲めるようになった頃に何度か飲み会に誘われて参加した記憶があります。そのとき、Tさんは「時間が合わず、参加できなかったんじゃないかな?（※先の県大会のときの本人の記憶をたどっての言葉）」とのことでその場にはいなかったようですが、当時の同級生の懐かしい名前が次々に出てきて、今どうしているかという話になり、家庭に主婦として落ち着いたたり、仕事をしたり、何らかの活動をしたりするなど、それぞれ元気にしているとのことでした。「昌平の先生方の顔触れは・・・?」との質問も受けましたが、「懐かしい先生も多く残っているよ」と伝えておきました。

さて、Tさんは筆者と昔話をしながら、しきりに「もっと勉強しておけば良かった」と話していました。筆者は、「みんな思うことだよ」と返答しましたが、特に「英語などはもっとしっかり取り組んでおくべきだった」という思いがあるようです。先にも記したように、毎朝早起きして小野町から本校に通うという精神力の強い人だからこそ、大人になってから、「(高校時代は)不勉強だった」という思いをより強くしたのだと思います。現在も小野町にアパートを借りて旦那さんと2人のお子さんの家族4人で生活し、毎朝実家に子どもさんを預けて県南地区の高校まで1時間かけて通う日々だと話していました。時間は確実に経過していると感じつつ、非常に懐かしさも感じる楽しい時間でした。ちなみに、その後の県大会でも、Tさんは筆者と顔を合わせれば笑顔で声をかけてくれて、県大会に行く楽しみが1つ増えました。

文責：清水聖（進路指導主事）